

## 令和元年度 第3回鹿児島市保育園協会青年部研修会報告書

- 日 時 : 令和元年2月4日(火)・5日(水)
- 場 所 : 1、社会福祉法人こまつ会幼保連携型認定こども園 乙房こども園  
(宮崎県都城市乙房町323)  
2、社会福祉法人元宮ちどり福祉会 ちどり子ども園  
(宮崎県宮崎市南高松町2-37)
- 研修内容 : 2月4日(火) ①鹿児島中央駅に集合8:10発、中型バスにて視察場所へ  
②訪問先にて視察、質疑応答  
2月5日(水) ③宮崎県内視察
- 参 加 者 : 会員・賛助会員11名

### ① 社会福祉法人こまつ会幼保連携型認定こども園 乙房こども園にて

刀坂弘毅園長より、保育環境整備に関して方針等の説明を行っていただき、「乙房こども園」をご案内いただいた。園庭遊具について、子ども自身のやる気と能力に応じた適度なリスクをあえて残すことで、子ども自身の失敗と学び・達成感を引き出すようにしてあり、能力を超えるリスクに直面しない環境を作っていると伺う。

また、保育士は子どもに応じた適度な距離感での見守りを行っており、挑戦している最中の子どもへの手助けや声掛け等を行わないで、時には子どもの視界に入らないように心がけているとのこと。期待等を受けて頑張りすぎないように、子ども自身が考える課題と目標に挑戦できるように、子ども自らいつでもやめることができるように、次の挑戦につながるように、配慮を行っているそうだ。

保育環境の整備方法については、一級建築士さんの指導の下、保護者(おやじの会)も巻き込んだ、保育者・保護者自らの手で環境を整備する取り組みを行っているとのこと。子どもたちも大人の姿を見ながら、木くずを運ぶ、土を運ぶ、木を切るといった思い思いの活動を展開しているそうだ。子どもたちの姿には、大人たちと一緒に環境を作ったという達成感や自分や親が作ったという誇らしさも感じられるという。

保育環境整備とこどもの主体的な学びの関連性について、保育者の視点や関わりの重要性について、多くを学ばせて頂いた。



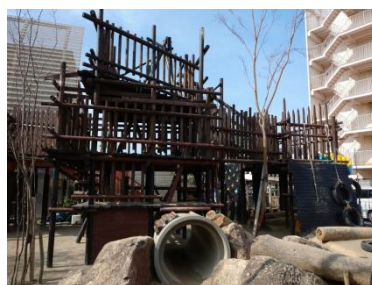
## ② 社会福祉法人元宮ちどり福祉会 ちどり子ども園にて

西部園長より、「ちどり子ども園」の案内をして頂き、園庭整備について、認定こども園への移行について説明を行っていただく。

「ちどり子ども園」は、宮崎市の商業地域に近い立地条件であり、限られた環境の中で、子どもたちが遊びこめる環境を整備するにあたって、園庭遊具に力を入れられていると伺う。園のシンボルとなっている遊具は、こどもの大きさにこだわって設計されており、秘密基地を思わせる木をふんだんに使った仕上がりとなっている。遊びこめる環境を作ったことで、こどもたちの身体能力の発達と、ケガ件数の減少につながっていると感じているという。立地条件や周辺地域の特殊性を話され、入所児童数について、1号認定と2号認定の逆転現象が発生していることを伺う。保育環境の整備がこどもの成長・発達に良いだけでなく、施設運営で課題となる園児獲得にとっても必要な課題であるとのこと。

また、認定こども園への移行について、施設型給付費の単価の違いや、定員の考え方、幼保連携型認定こども園と保育園型認定こども園の違い、移行への利点等について意見交換を行い、鹿児島市と同じ「その他の地域」に該当する宮崎市内の状況と施設運営について説明を行っていただいた。

限られた資源をどう生かすか、認定こども園移行への考え方など、地域環境を踏まえて多角的な視点を持つことの重要性について、多くを学ばせて頂いた。



## ③ 宮崎県内の視察

宮崎市内の周辺環境や飲肥方面の周辺環境について、実際に見て歩く中で、自然や地域環境の特徴などを感じることが出来た。

